

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月10日

協議会名: 登別市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
登別国際観光コンベンション協会	運行系統名:オニスロ(平日) 運行区間:道南バス登別温泉ターミナル～はなや～泉源公園～地獄谷～天然足湯～道南バス登別温泉ターミナル 運行回数:9回 運賃:1回200円、1日500円	初回の事業評価であるが、既存路線等の連携を意識	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 周知活動の出遅れ等により1便当たり4.2人の目標に対して2.0人となった。 安全管理の徹底による設備体制の充実、利用者数の伸び悩みにより収支率60%の目標に対して20.7%となった。 上記理由により(一社)登別国際観光コンベンション協会の支出額135万円の目標に対して254万円となった。	利用しやすいダイヤへの改正、分かりやすい運行形態への見直し、ニーズに応じた乗降箇所への改善、地元商店街等の連携による利用促進により、全体の見直しを行う。
登別国際観光コンベンション協会	運行系統名:オニスロ(休日) 運行区間:道南バス登別温泉ターミナル～はなや～泉源公園～地獄谷～天然足湯～道南バス登別温泉ターミナル 運行回数:28回 運賃:1回200円、1日500円	初回の事業評価であるが、既存路線等の連携を意識	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 周知活動の出遅れ等により1便当たり7.4人の目標に対して2.2人となった 安全管理の徹底による設備体制の充実、利用者数の伸び悩みにより収支率60%の目標に対して20.7%となった。 上記理由により(一社)登別国際観光コンベンション協会の支出額135万円の目標に対して254万円となった。	利用しやすいダイヤへの改正、分かりやすい運行形態への見直し、ニーズに応じた乗降箇所への改善、地元商店街等の連携による利用促進により、全体の見直しを行う。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 6 年 1 月 10 日

協議会名:	登別市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>登別市は北海道の南西部に位置し、形状はほぼひし形をなしており、面積は212.21km²で人口は44,479人(R5.11時点)である。</p> <p>登別温泉地区における登別温泉から足湯入口の区間は観光のみならず、住民の通勤や私用での利用もされている。一方、既存の路線バスは、極楽通り商店街内の歩行者が多く運行が難しいことから走っておらず、買い物や通勤先に直接公共交通でアクセスができない状態にあり、住民に不安を強めている状況にある。</p> <p>このため、地域公共交通確保維持事業により、極楽通り商店街を通ることができる新たな交通手段(グリーンスローモビリティ)を導入することで、住居・職場とバスターミナル、JR駅や広域交通を結ぶ、安全で安心な生活交通を確保・存続させていくことが必要である。</p>